

# 加 島 地 区

**所在地** 大阪市淀川区加島1丁目の一部

**世帯数** 353世帯

**人口** 847人

## 地区協構成団体

〈かしま人権協会 会長 南田勇次〉

加島連合振興町会、加島連合振興町会女性部、加島女性会、加島地域社会福祉協議会、加島地区民生委員協議会、加島青少年指導員連絡協議会、加島地区まちづくり実行委員会、加島三津屋地区同和教育推進協議会、社会福祉法人加島友愛会、加島東之町会、加島地区住宅入居者組合、加島地区福祉医療ネットワーク委員会、加島地区総合計画実行委員会、加島東老人クラブ、加島地区障害者組合、加島地区教育保護者会、学識経験者、地元精通者

## 地区内公共施設

大阪市立加島人権文化センター、大阪市立加島青少年会館、大阪市立加島老人福祉センター、大阪市立加島障害者会館、大阪市立加島第一保育所、加島希望の家（知的障害者通所更生施設）、加寿苑（特別養護老人ホーム）、アンダンテ加島（知的障害者入所更生施設）

## 地区の沿革

### ■ 部落の歴史と地域の特徴

加島は、神崎川と猪名川・藻川が合流し大きく左曲する左岸に位置しています。その地名は、難波八十島の一つ、仮島に由来するといわれていますが、蟹島・神島・賀島・歌島あるいは鍛冶ヶ島とも称せられました。神崎川の下流にあるところから水駅としてはやくから発達した地域であり、西国への交通の要地として栄え、平安時代末の書物にもその賑わいがすでに記されています。また鍛冶ヶ島とも呼ばれたとおり、鍛冶の盛んな所であったらしく、南北朝時代の史料に「賀島鍛冶衆」の文言がみえ、18世紀なかばには「錢座」がおかれ、いわゆる「加島錢」と称された「寛永通宝」が鑄造されました。

さて、加島部落はいつごろできたのでしょうか。もっとも古い記録は、江戸時代の前期、1677年の検地帳でこれに「かわた」の肩書がついた5人の農民の名前が他の農民の間に記されています。また、1704年以前に作成された「摂津国図」という地図に「加嶋ノ内皮多」の記載があります。

このころの部落の規模をあらわす史料としては、1760年の「村明細帳」があり、村の石高1,203石4升7合、家数167軒、人口866人となっています。加島部落はこれに含まれておらず、家数、人口などが別記されており、穢多家数21軒、穢多人数120人と記されています。このように江戸中期になると「皮田」から「穢多」の表現になっており、また「村明細帳」の中で別記されており、差別の強化と徹底さがうかがわれます。

この史料から村の産業として、綿花栽培・むしろ織り・木綿織りなどが読み取れますが、部落の人々がどのように生活を営んだかは明らかではありません。しかし「上之島文書」の中に江戸末期（1860）、1868（明治元）年における下屎（屎尿）汲み取りの権利に関する記事がみえ、少なくとも農業だけでは生活できず、

# 日之出地区

**所在地** 大阪市東淀川区西淡路1丁目の一部・2丁目の一部、淡路1丁目の一部、東中島1丁目の一部・4丁目の一部・5丁目の一部

**世帯数** 758世帯

**人口** 1,709人

## 地区協構成団体

(新大阪人権協会 会長 中田 登)

(財)日之出会、第7振興町会、青年の会、女性の会、老人の会、共同墓地管理運営委員会、保育教育子育てネットワークひので、生活向上会、作業場従事者組合、企業者組合、文化・部落史研究会、西淡路地域社会福祉協議会、淡路地域社会福祉協議会、淡路地域教育協議会、障害児・者の生活と教育権を保障しよう淀川・東淀川区民の会、西淡路西部地域まちづくり委員会、新大阪駅東口周辺再開発組合、(社福)ノーマライゼーション協会

## 地区内公共施設

人権文化センター、青少年会館、共同作業場、障害者会館、日之出荘、第2・第3保育所、共同墓地、共同浴場、診療所

## 地区の沿革

### ■ 部落の歴史と地域の特徴

日之出部落のあるこの地が初めて明確にあらわれる資料は、江戸時代に書かれた『正徳寺旧記』です。それによると、延宝年間に恵観という僧が、本願寺寂如法主の直弟子となって修養した後、1674(延宝2)年に正徳寺を禅林寺(別西寺)に建立し、般若山と名づけたのです。(現在の正徳寺の門と本堂にも、「般若山」の額が掲げられています。)この寺は、真宗本願寺の末寺として阿弥陀仏を本尊として開かれましたが、1758(宝暦8)年4月5日、寺内より出火して堂宇は焼け、一時衰退しました。しかし1824(文政7)年、僧観之が再建をなしとげたのです。記録によると境内は102坪(1959年の実測では183坪)あり、本堂・庫裏・書院・鐘楼・土蔵・医薬門等があり、江戸時代の延宝年間には一村が形成されていて、北中島郷の南庄の禅林寺(俗称西寺)と呼ばれていました。

その後、宮崎村と呼ばれたのは、中島惣社の崎(前)にあったので、宮の崎→宮崎になったものと考えられます。

1753(宝暦3)年の『摂州住吉西成三郷地図』には「南宮原皮多」と記載されており、村名に



人権文化センター

# 飛鳥地区

**所在地** 大阪市東淀川区東中島3丁目と2・5丁目の一部

**世帯数** 585世帯（2000年調査）

**人口** 1,320人（2000年調査）

## 地区協構成団体

飛鳥住宅自治会、飛鳥西住宅自治会、教育父母の会、保育所保護者会、企業者組合、老人会、障害者組合、住宅要求者組合、仕事保障要求者組合、浴場運営委員会、消費生活協同組合、地元精通者（青年部、女性部など）、山口・飛鳥霊園管理委員会、啓発連合飛鳥振興町会、啓発青少年指導員会、啓発民生委員会、啓発保護司会、啓発婦人会

## 地区内公共施設

大阪市立飛鳥人権文化センター、大阪市立飛鳥青少年会館、大阪市立あすか保育所、飛鳥ショッピングセンター（飛鳥生協を含む）、パール温泉、あすか温泉、飛鳥健康管理センター、山口・飛鳥霊園



昔の地区の風景



昔の地区の風景

# 南方地区

**所在地** 大阪市東淀川区東中島2丁目及び1丁目の一部

**世帯数** 470世帯

**人口** 951人

## 地区協構成団体

民生児童委員、財団法人南方会、南方鉄筋住宅振興町会、啓発連合振興町会、啓発地区社会福祉協議会、東淀川区青少年指導委員、企業者組合、駐車場利用者組合、老人会、障害者（児）会、生活保護受給者組合、公務員部会、教育・保育を守る会、保護司会、学識経験者、地元精通者

## 地区内公共施設

人権文化センター、青少年会館及び同付設プール、保育所、市営第1・第2・第3・第4（店舗付き）・第5（店舗付き）住宅及び同付帯駐車場、ゆ〜ゆ〜ファミリー、むくの木・南・小公園、障害者（児）憩の家、診療所、南方生協、さわやかデイサービスセンター、地域交流センター

## 地域の発展をめざして

南方地区協議会（2002年4月に南方人権協会に名称変更）は1953年旧大阪市同和事業促進協議会（現社団法人大阪市人権協会）発足と同時に結成されました。以来、地域の環境改善・地区住民の生活向上を中心に同和事業を積極的に推し進め、2002年3月末をもって失効した「地对財特法」後も地区内はもとより地区外にも視野を広め同和問題の解決とすべての人の人権が尊重されるための一般施策の創設と活用・誘導に寄与し、また、地域住民への自立支援と人権啓発活動等を行ってきました。

結成当時、地区には青少年会館・児童館・共同浴場がありましたが、老朽化がひどく会合すらできない有様でした。

また、地区の生活環境は劣悪を極めていました。陽の射さない入り組んだ狭い道、上下水道が整備されておらず、雨がいったん降り出すと膝の下まで雨水があふれ、川のようになることが度々でした。車の通行できる道路はたったの1本のみで、地区内の住宅も住居と呼べるような建物ではなく、木造でト



地区航空写真(1960年)

# 生江地区

**所在地** 大阪市旭区生江3丁目の一部

**世帯数** 736世帯（2000年実態調査）

**人口** 1,562人（2000年実態調査）

## 地区協構成団体

〈同和事業促進生江地区協議会 会長 北井忠三〉

子どもの未来を創る会、心身障害者（児）組合、老人会、企業者組合、保育を守る会、母子父子寡婦家庭を守る会、妊産婦を守る会、生活守る会、高校奨学金受給者組合、大学奨学金受給者組合、訓練生友の会、講習事業受講生組合、住宅要求組合、住宅管理人組合、住宅自治会

## 地区内公共施設

人権文化センター、青少年会館、白寿荘、障害者会館光生園、保育所、生江診療所、生江湯、地域在宅サービスステーション翠（社会福祉法人リベルタ）

## 地区の沿革（地区の紹介と歴史の沿革）

生江地区の成立については、最も古い史料として、地区内にある浄土真宗指月山常宣寺が1397年に開基されていることから、集落の形成がそれ以前であったことがわかります。

また、生江地区（当時は「荒生（なぎ）」という地名でした）は遅くとも17世紀終わりには被差別の地区として成立していたことが次の史料からわかります。「摂津河内国絵図（1701年以前の書）」に「荒生の皮多」と記されていること、また「用悪水井路絵図（1724年以前の状態）」に「荒生」とは別に「穢多村」との記載がみられます。

被差別部落の成立との関係は明らかではありませんが、その間の一向一揆や石山本願寺の合戦（1570～80年）に荒生の人々も一向宗門徒として加わっていたであろうと容易に推察できます。また、1837年の大塩平八郎の乱では、「救民」の旗の下、農民と共に荒生の人々も数多く参加する一方、役人村として乱を鎮める城方にも立たされています。

さて、生江地区を含む城北村一帯は、小さな水路が村一帯を縦横に走り、小舟を利用した交通路が発達していました。またこのあたりは、低湿地帯で沼地が多く、葉の



「共同物干場」（1954年頃）

# 両国地区

**所在地** 大阪市旭区清水4・5丁目の一部

**世帯数** 110世帯

**人口** 207人

## 地区協構成団体

〈大阪市同和事業促進両国地区協議会 会長 川邊芳詮〉

地区教育保護者会、企業者組合、民生児童委員、個人給付的事業資格審査委員会、公務員連絡会、住宅入居資格審査委員会、講習事業受講生代表、住宅入居者組合、老人会、住宅連絡員代表、障害者組合、地区内精通者

## 地区内公共施設

人権文化センター、老人福祉センター、青少年会館、両国保育所、理髪店（A・C・T）、両国温泉、両国町公園、大阪市営両国住宅（1～5号館）、障害者憩の家、診療所（2002年3月閉鎖）

## 地区の沿革

### ■ 両国の歴史と特徴

両国地区の前身は、守口の高瀬の里（今の京阪電鉄土居駅付近）にありました。守口は淀川に沿った、大阪を守る口で重要な土地でした。高瀬の里は淀川の河原にあって、「河原者」すなわち「世木の皮多」とよばれて、11軒程度の世帯が住んでいました。その後、江戸時代の寛永末期、現在の両国の地、当時の般若寺村へ移住させられたということです。

つい近頃まで、両国地区の名として「世木」の名称が通用していました。

なお、両国の地名は、摂津の国（現在の旭区清水）と河内の国（守口市）の両国にまたがっていた「両国橋」に由来するといわれています。

般若寺村は、淀川や寝屋川が大雨で増水するたびに水が押し寄せるといふ土地で、水はけが極めて悪く、まともな農地とはいえないところで、蓮根の産地として名高い湿地帯でした。

その後、明治の町村制公布や、大阪市の市域拡張、町村名変更等を経て現在の「旭区清水」の町名となりましたが、その間、大阪市全体を巻き込んだ社会の変革と都市化の波は、両国の地にも押し寄せ、1917（大正6）年の調査では、戸数67、人口317名だったのが、1955（昭和30）年の大阪市調査では、110世帯503名、1967（昭和42）年の同調査では、527世帯、1619名と過密化が進み、世帯、人口とも激増しています。

さらに、田畑につながる用水路や川は埋め立てられ、道路になり、川や蓮根池跡の不整形な姿となりました。これに比例するように、住民の職業面においても、従来の少数の地主と大多数の貧しい小作人で主に成り立っていた職業構成は、下駄の修理販売、靴修理などの部落産業、さらには百貨店の下働き、大工、左官等の職人や建築手伝い、隣接する守口市にできた電器工場の工具などの給与労働者へと比重が移っていきました。

# 浪速地区

**所在地** 大阪市浪速区浪速東1丁目～3丁目・浪速西1丁目～4丁目・木津川2丁目・久保吉1丁目の一部・大国町1丁目～3丁目・戎本町1丁目の一部

**世帯数** 2,729世帯（2000年実態調査）

**人口** 5,936人（2000年実態調査）

## 地区協構成団体

〈同和事業促進浪速地区協議会〉

高齢者「和の会」、ハンディキャップ熱と光の会、労働生活対策支援組合、ペイド・ボランティア環境整備事業組合、住宅利用者組合、企業者組合、講習会、読み書き教室、教育対策受給者組合、就労支援組合

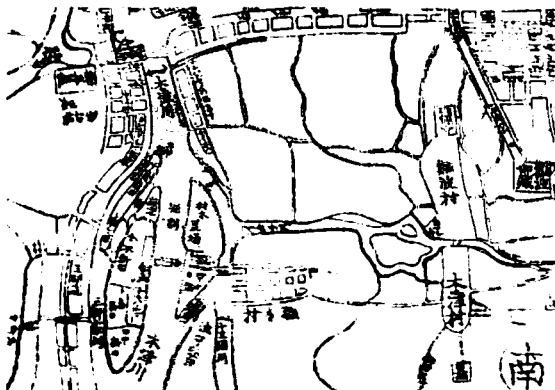
## 地区内公共施設

人権文化センター・大国町会館・老人センター・にしはま荘・大国町老人憩の家・戎本町老人憩の家・浪速武道館・青少年会館・浪速第1保育所・第2保育所・第4保育所・第5保育所・大国保育所・5ヶ所保育所合同菜園・栄小学校・大國小学校・浪速障害者会館・ゲートボール場・老・障合同菜園・芦原病院・スワンなにわ・リバティおおさか

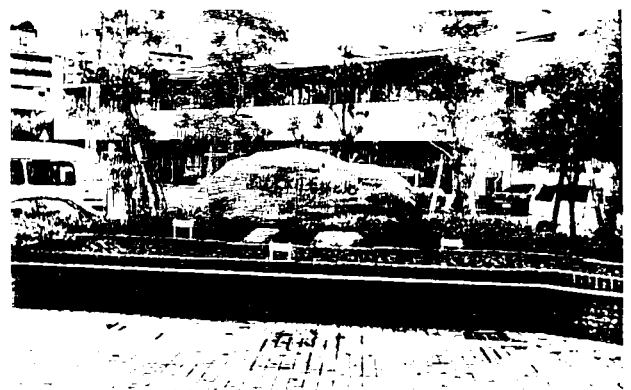
## 地区の沿革と現況

1603（慶長8）年、江戸幕府が成立すると、大阪市中の数カ所に分住させられていた旧渡辺の里の人々は、強制的に西成郡下難波村領に集められ（そのとき渡辺村と称した）、町奉行の直轄支配下におかれて義務労役を命じられました。

労役の内容は、罪人の逮捕、護送、町中引回しの刑の執行などで、ときには百姓一揆、打ちこわしのときの弾圧の手先としての役目も負わされていきました。また、生業の一部ではありますが、大阪城・四天王寺その他の太鼓の張りかえなども義務づけられていきました。浪速地区の前身である西浜部落が、江戸時代、



1700年頃の渡辺村（古地図）



西浜水平社発祥の碑

# 西成地区

**所在地** 北開1～2丁目、中開1～3丁目、南開1～2丁目  
出城1～3丁目、長橋1～3丁目、鶴見橋1～3丁目  
旭1～3丁目、北津守1～4丁目

**世帯数** 10,443世帯

**人口** 22,079人 男 11,349人、女 10,730人

## 地区協構成団体

長橋社会福祉協議会、松之宮社会福祉協議会、北津守社会福祉協議会、弘治社会福祉協議会、梅南社会福祉協議会、萩之茶屋社会福祉協議会、長橋連合振興町会、松之宮連合振興町会、北津守連合振興町会、弘治連合振興町会、梅南連合振興町会、萩之茶屋連合振興町会、長橋地区民生委員協議会、松之宮地区民生委員協議会、北津守地区民生委員協議会、弘治地区民生委員協議会、梅南地区民生委員協議会、萩之茶屋地区民生委員協議会、長橋地区ネットワーク委員会、松之宮地区ネットワーク委員会、北津守地区ネットワーク委員会、弘治地区ネットワーク委員会、梅南地区ネットワーク委員会、萩之茶屋地区ネットワーク委員会、長橋小学校PTA、松之宮小学校PTA、北津守小学校PTA、梅南小学校PTA、津守小学校PTA、鶴見橋中学校PTA、梅南中学校PTA、長橋婦人会、西成地区街づくり委員会、西成区障害者の人権を守る会、部落解放西成地区住宅入居者組合、西成地区保育所保護者連絡会、部落解放西成地区教育を守る会、介護者の会、部落解放西成地区老人会、生きがい労働事業団、鶴見橋商店街連合会、(社福)ヒューマンライツ福祉協会、(財)ヒューマンライツ教育財団、西成区人権啓発推進会

## 地区内公共施設

人権文化センター・同津守分館、文化温泉、三星温泉、北津守温泉、平和湯、鶴見橋温泉、ツルミ診療所、長橋診療所、北津守診療所、長橋第1保育所、長橋第2保育所、長橋第4保育所、長橋第5保育所、松之宮保育所、松之宮北保育所、津守西保育所、青少年会館、青少年プール、津守児童館、延寿荘、長橋老人憩いの家、出城老人憩いの家、松之宮老人憩いの家、松之宮集会所、長橋公園、長橋西公園、開公園、松之宮公園、北開公園、出城公園、出城児童遊園、鶴見橋東公園、津守東公園、津守西公園、旭西公園

## 地区の沿革

### ■部落の成り立ち

西成地区は、かつて今宮村と呼ばれ、その名称は1522(大永2)年にはじめて古文書にあらわれます。現在の三開・出城・長橋・鶴見橋付近は室町、江戸時代初期にかけてはまだ海中か海辺にあり、「開(ひらき)」という地名のとおり海を埋めて開発された土地で、人家や畑ができるのは元禄時代に十三間堀川が出来て以降と伝えられています。



# 住吉地区

**所在地** 大阪市住吉区帝塚山東5丁目、万代6丁目、上住吉1丁目の一部

**世帯数** 517世帯

**人口** 1,255人

## 地区協構成団体

〈大阪市住吉人権協会〉

住吉第5町会、住吉住宅自治会連合、住吉・住之江同和人権教育推進協議会、住吉北西三校会、財団法人住吉隣保館、社会福祉法人ライフサポート協会、住吉連合町会、住吉地区民生児童委員、大阪市人権啓発推進員、教育保護者会、学識経験者、地元精通者

## 地区内公共施設

人権文化センター、総合福祉センター、（老人センター・障害者会館・診療所）、青少年会館、青少年会館付設体育館、青少年会館付設プール、住吉乳児保育所、住吉保育所、寿湯、歴史資料館準備室、神ノ木公園、生活協同組合店舗、住宅1号館～16号館、上住吉住宅1～3号館

## 地区の沿革

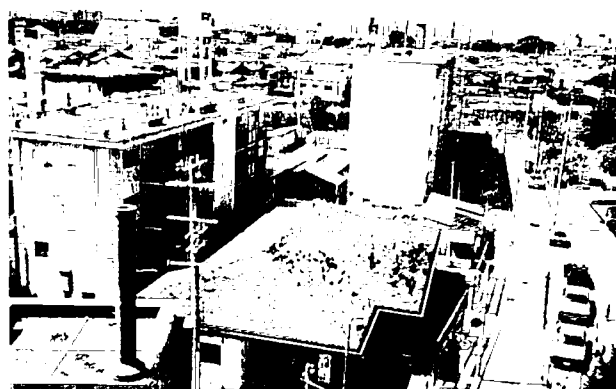
### ■ 住吉部落のおこり

江戸時代の住吉部落は、摂津国住吉郡住吉村の一つの字を形成していました。

しかし、この住吉部落の起こりは、長年研究が行われていますが現在の段階では不明のままです。

これまでは住吉部落は住吉大社と関係があるのではないかとされてきましたが、1986年「住吉部落歴史研究会」が発足され、その研究の中でいくつかの新たな説が出てきました。

その一つが、「住吉部落移動説」です。住吉地区の言い伝えに「昔は別の場所にあり、いつの頃か現在の地に移ってきた」というものがあります。老人達の話によれば、「もとの地は、安立1丁目あたり」、「もうすこし西の高燈籠の付近」に住吉部落があったという人もいます。



現在の1号・2号棟より 奥の建物は、住吉東駅のポイント操作所

# 浅 香 地 区

**所在地** 大阪市住吉区浅香1・2丁目、苅田10丁目の一部

**世帯数** 519世帯（2000年国勢調査）

**人 口** 1,342人（2000年国勢調査）

## 地区協構成団体

教育守る会、企業者組合、資源再生協同組合、住宅入居者組合、生活保護者組合、障害者（児）の会、総合計画実行委員会、地区青年代表、地区女性代表、大阪市地域振興会浅香町会、我孫子地区同和教育推進協議会、老支会

## 地区内公共施設

浅香人権文化センター、青少年会館、浅香東保育所、老人福祉センター、障害者会館住吉スポーツセンター、区在宅サービスセンター（以上、公設置公営）

浅香温泉、浅香診療所、資源再生共同作業場、浅香霊園、駐車場（以上、公設置民営）

浅香会館（社会福祉法人あさか会の施設）、総合社会福祉施設アップリケア、AOTS、中央公園、多目的広場、浅香町公園、苅田10丁目公園、浅香公園、河川敷公園

## 地区の概況

1995年の国勢調査によると浅香には512世帯が住み、人口は1,342人の町である。'90年の調査時に比べて100世帯近く減少している。これは街づくりのための用地買収による転出（一時的なものも含む）が原因である。

グラフによる浅香の年齢構成では、これを'95年大阪府国勢調査と比較すると、老年人口では6.4%高く、生産年齢人口は5.7%低くなっている。

このような高齢化は全国的にも進んでいるが、浅香地区の場合、より顕著にあらわれているといえる。その原因として、用地買収による転出者に働き盛りの世帯の割合が高いことや、結婚や就職等による青年層の流出などが考えられる。しかし、一方で苛酷な労働等による「早死」という差別実態が、克服の方向に進んでいるという点も見逃せない。これらの人口の動きは浅香の環境や産業や労働、そして保育や教育と福祉などへの対策の重要性を教えているといえる。

浅香では、差別の結果として環境や生活実態など劣悪な状況を余儀なくされ、義務教育も満足に受ける事が出来ずに「読むこと」や「書くこと」に、不自由を感じている人たちが多く、とりわけ50代以上の世代では、その傾向が大きいと言える。さらに、高校や大学への進学はより困難を伴った。このことは、就職など仕事の上ではもとより、社会生活でのあらゆる場面で不利に作用して来たとし、そのことが何世代にもわたって繰り返されてきた。

高齢層では「奪われた字を取り返す」ために、「識字学級」などにとりくんできた。また、親たちの子どもの教育に託す願いも強く、解放教育・保育を進める組織を作り、教育条件の改善から教育内容の充実にわたる多様なとりくみが地域一体となって進められてきた。

# 矢 田 地 区

**所在地** 大阪市東住吉区矢田5丁目・6丁目・住道矢田3丁目の一部

**世帯数** 817世帯

**人口** 1,672人

## 地区協構成団体

〈大阪市東住吉矢田人権協会〉

部落解放矢田婦人会、部落解放矢田青年会、部落解放矢田老人会、矢田住宅連合入居者組合、矢田障害者組合、矢田地区企業者組合、部落解放矢田生活協同組合、矢田同和教育推進協議会、部落解放矢田総合計画委員会、資源再生共同組合、学識経験者、地区内精通者

## 地区内公共施設

人権文化センター、矢田教育の森保育所、老人福祉センター（部落解放矢田老人センター）、青少年会館（少年館、青年館＝解放塾）、障害者会館、区役所出張所、保健センター出張所、消防署出張所、ゆとり健康創造館・ラスパ大阪、生活協同組合医療センター、矢田5郵便局、生活協同組合販売所、ふれ愛温泉矢田、第2戎湯、特別養護老人ホーム花嵐、矢田資源再生共同作業所、矢田富田町墓地、矢田教育の森公園

## 地区の沿革

### ■ 矢田における部落解放運動の歩み

#### （1）戦後部落解放運動の出発と部落解放同盟矢田支部の結成

矢田での戦後の部落解放運動は、1951年に起こった「結婚差別事件」をきっかけに、翌1952年発足した「矢田村富田青年会」によって始まりました。

1954年の「硫酸事件」（矢田出身教師への差別事件）への取り組みや、全国初の自動車運転免許証取得運動（後に「車友会」に発展、実質的に識字活動の始まり）、1956年の「金属屑営業条例」反対闘争、1958年の「住宅要求期成同盟」の結成（5月）、「生業資金獲得期成同盟」の結成（8月）を経て1958年9月5日部落解放同盟矢田支部は結成されました。

#### （2）大衆闘争の発展。混迷・対立・分裂から統一へ。

矢田支部結成当時、多くの人々は生活が不安定で、部落内の高利貸しから、十日一（10日で1割の利息）といわれる借金をしていました。その結果としての「ボス支配」の状況下で、生業資金獲得闘争に全力をあげ、全国ではじめて生業資金の貸し付けを獲得します。この事は、生活保護の正しい運用を求める福祉行政民主化闘争へと発展していきます。

また、1957年矢田中学校の「暴力教室事件」を契機とした教育闘争が取り組まれ、青年による子ども会指導の結果、1959年3月、解放子ども会が結成されました。

このころ60年安保闘争の大きなうねりの中で、「ロッキードより住宅を」のスローガンのもと、住宅要

# 平野地区

**所在地** 大阪市平野区平野市町3丁目の一部

**世帯数** 121世帯

**人口** 188人

## 地区協構成団体

〈平野人権協会〉

地区女性会、地区男性会、地区青年会、地区高齢者・障害者会、地区車庫利用者組合、市三東町会、跡地プロジェクト、平野同推協、地区住宅入居者組合、地区教育保護者会、東保育所保護者会、地区企業者組合、平野福祉会議「みなみ風」、学識経験者、民生委員代表、平野北中PTA、平野小PTA、「入船温泉」運営委員会、啓発文化活動交流会

## 地区内公共施設

平野人権文化センター、平野東保育所、平野老人福祉センター、平野青少年会館、同付設プール、同付設体育館、入船温泉、京町公園

